

以上假屋ノ仕様建坪及繪圖面等ヲ檢査シ積書ノ金員相當ト認ムルキハ出貸金額ヲ三分シ其一分ヲ作事着手ノ際ニ貸與シ殘ル二分ヲ假屋落成ノ後下渡スヘシ

陸路荷物運送費

以上着船場ヨリ移住地迄六里以上十里未満ハ一斤金二圓五十錢十里以上二十里未満ハ全上金五圓二十里以上三十里未満ハ同上金七圓五十錢三十里以外ハ全上金十圓ヲ貸下ヘシ

第三項 米及農具ノ類凡ソ現品ヲ以テ貸下ヘキモノハ其時價ヲ積算シテ出貸金額ニ組入ルヘシ

第四項 貸與金ハ其支出ノ遲速ニ係ハラス都テ各自移着ノ月ヨリ起算シ滿七ケ年間無利子据置翌八ケ年目ヨリ向二十ケ年賦ニ平均シ毎年十一月三十日限り返納セシムルモノトス

但若シ期日ニ至リ滯納スル者アルキハ該金額ニ年一割二分ニ

相當スル利子ヲ課シ滯納日數ニ應シテ徵收スヘシ

第五項 凡ソ金品ヲ貸與スルニハ先ツ第二號書式ノ仕出ヲ出サシメ之ヲ檢査シテ其誤謬ナキヲ認メハ更ニ第三號書式ノ證書ヲ徵シテ下渡スヘシ

第六項 出生死亡ハ其都度必ス届出シメ貸與金支出ノ證憑ニ供スヘシ而シテ其出生者ニハ届書受理ノ日ヨリ之ヲ貸與シ死亡者ニハ死去ノ日ヨリ停止スヘシ

第七項 貸與金額皆納ノ日迄ハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣貸讓與シ又ハ書入質入ト爲スヲ許サス

第八項 已ニ得サル事故アリ届濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ歸村スルキハ不在中尙成規ノ米及糧附料ヲ貸與スヘシト雖モ若シ日數六日以外ニ及フキハ歸着届書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下ザルヘシ而シテ其日數ハ控除ニ歸スヘシ

第九項 凡ソ規則ニ悖リ業務ヲ惰リ第四條第五項ノ貸與ヲ停止セシ後尙課程ヲ怠ルノ場合ニ於テハ將來一切ノ貸與ヲ停止シ且ツ既ニ貸下タル金額ハ年賦返納ノ約ニ係ラス即時ニ之ヲ完納セシムヘシ

但即時完納シ得サルハ家屋及ヒ農具其他一切ノ所有物等ヲ公賣シテ其代價ヲ追徴シ尙ホ不足ヲ生スルハ連借人ヲシテ辨償セシムヘシ

第六條 雜則

第一項 移住者便利ノ爲メ二十戸ヲ以テ一組トシ每組ニ總代一名ヲ置キ都テ戸長ノ指揮ニ從ヒ組内ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ
第二項 總代ハ移住者中ヨリ公撰シ戸長ノ認可ヲ得ル者トス
第三項 總代ハ諸般ノ公務ヲ組内ニ傳ヘ又ハ組内ノ勤惰ヲ具シテ戸長ニ報告スルヲ得

第四項 總代ハ官給ヲ與フルノ限リニアラス

第五項 組合中ハ平常親睦ヲ旨トシ凡ソ天災生死等緩急相救ヒ吉凶相援シルノ情誼ヲ厚フシ決シテ疎隔ナキヲ務ムヘシ

第一號書式 (戸籍調ハ一般ノ例規ニ倣フヘシ)

移住願

今般明治何年第 號御布達移住士族取扱規則ヲ遵守シ御縣下へ移住農業一途(或ハ農家ニ緊要ニ關係ス)ヲ以テ家産相營ミ度候間移住ノ儀御許可被成下度別紙戸籍明細調書相添此段奉願候也

何府縣下何國何郡何町何番地士族

何ノ誰印

全

年號年日

全

何ノ誰印

函館縣令某殿

前書出願ノ趣相違無之候也

戸長

何ノ誰印

何誰印

第二號書式

(農具及假家作料荷物運送費等)

明治何年何月分御貸與米金仕出

一 米何程
金何程

何ノ誰

家族何人

内譯

七年以上六十年未満

何人

米何程
金何程

但一人ニ付一日 米五合 金一錢五厘

米何程
金何程

七年来滿六十年以上

何人

但一人ニ付一日 米三合 金三錢

(以下每戸此例ニ倣ヒ列記スヘシ)

合 米何程
金何程

右ハ本年何月一日ヨリ何日迄日數何日分米金書面ノ通御貸與被下
度因之仕出候也

戸長

年 號 月 日

何ノ誰印

總代

何ノ誰印

第三號書式

(農具及假家作料荷物運送費等)

印紙
貼用

一金何程

是ハ明治何年何月分御貸與米金七年以上六十年未滿何人七年来未滿六十年以上何人合何人分

存御貸與相成正ニ拜借仕候ニ付テハ都テ御規則ノ通相心得聊カ無相違返納可仕候萬一期限相滯候等不都合ノ儀有之候節ハ本人ニ係ラス連借人ニ於テ悉皆辨納可仕候爲後日拜借証書如此ニ候也

拜借人

年 號 月 日

全

何ノ誰印
何ノ誰印

函館縣令某殿

○甲第二十五號

移住士族取扱規則別冊之通り相定候條此旨布達候事

明治十六年六月七日

札幌縣令訓所廣丈

(別冊)

移住士族取扱規則

第一條 總則

第一項 凡ソ他道ノ士族本縣管内ニ送籍移住シ農業一途ニ從事セ

ント欲スル者ハ此規則ニ照シテ出願スルヲ得

但士族ニシテ農家緊要ノ關係ヲ有スル職工ニ從事セント欲スル者ハ本文ニ準據スルヲ得

第二項 此規則ハ士族ノ最貧困ニシテ自力移住シ得サル者ノ爲メ特ニ施行スルモノトス

第三項 移住ハ明治十五年度^{會計年}以降毎年百五拾戸ヲ限リ八ヶ年間之ヲ移スヘシ

但本項制限ニ充ル時ハ此規則ニ由ルヲ得ス

第四項 移住者ハ一戸中強健ニシテ職業ニ堪ユル男女二人以上アル者ニ限ルヘシ

第五項 此規則ニ賴テ移住セシ者ハ當初ヨリ二十五ヶ年間他ノ營業ニ移ルヲ許サス若シ中途癩疾又ハ負傷等ノ故ヲ以テ其業ニ堪ヘサルハ其事實ヲ具シテ願出ヘシ

第六項 凡ソ本則中改正又ハ増補ヲ要スルハ其都度農商務卿ノ裁定ヲ經テ之ヲ施行スルモノトス

第七項 此規則ニ違背スル者ハ各條ニ照シテ之ヲ處分ス

第二條 移住ノ順叙

第一項 移住者ハ第一號書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其

添書ヲ得テ本縣ニ願出ヘシ

第二項 本縣ハ其戸數人口及事由ヲ調査シ意見ヲ具シテ農商務卿ノ裁定ヲ經テ許否スヘシ

第三項 若船場ヨリ移住地マテ陸路ノ距離六里以上アル者ニ限リ荷物運送費トシテ第五條第二項ノ區別ニ照シ一戸金十圓以内ノ額ヲ貸與スヘシ

第四項 移住ノ季節ハ本縣ニ於テ之ヲ豫定シ其時々願者ニ指示スヘシ各自隨意ニ渡航スルヲ許サス

第五項 移住願ハ移住地配置ノ都合ニ依リ豫算ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ若シ豫算ニ足ラサルハ其豫算ニ滿ツルヲ俟テ移住セシムルコトアルヘシ

第三條 地所ノ制限

第一項 移住者配置ノヶ所ハ本縣ニ於テ豫メ指定スル所ノ區域ニ

限ルヘシ

但配置ノ箇所ハ位置及地積等ヲ概記シ時々新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第二項 耕宅地ハ一戸凡ソ壹萬坪トシ素地代價及年季ヲ定メテ之ヲ貸與シ開墾地トナリタル地所限リ滿季後滿三ケ年間ヲ以テ素地代價徵收ノ期限トシ該期限内上納ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トナスヘシ

第三項 貸地年季ハ貸與ノ月ヨリ起算シ滿七ケ年トシ其間貸地料ヲ徵セズ素地代價ハ千坪金五十錢ヲ超ヘルモノトス

第四項 貸地滿季後二十ケ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵收スヘシ但素地代價徵收期年内ニ在テ素地代價未納ノ分ハ全上地租同一額ノ貸地料ヲ徵收スヘシ

第五項 耕宅地ハ像メ其區畫ヲ定メ抽籤ヲ以テ分賦スヘシ各自隨

意ニ撰擇スルヲ許サス

第六項 當籤ノ地所各自ノ都合ニ依リ相對示談ノ上交換セント欲スル片ハ其事由ヲ具シテ認可ヲ請フヘシ

第七項 耕宅地ノ外山林又ハ原野ヲ拂下ケ一村若クハ數村ノ共有ヲラシムルコトアルヘシ

第八項 山林拂下ノ順叙ハ一般ノ成規ニ據ルヘキ勿論ナリト雖モ其代價ハ實際ヲ酌量シ拂下ノ年ヨリ三十ケ年以内ノ年賦上納ヲ許可スルコトアルヘシ

第九項 既ニ拂下タル山林ハ永久保存ノ方法ヲ立テシメ其樹木ハ自家建築及薪炭用ノ外濫リニ伐採スルヲ許サス

第十項 樹木伐採ノ手續ハ都テ一般ノ成規ニ遵フヘシ

第四條 開墾ノ目的

第一項 凡ソ農業ハ其耕作ノ種類ニ因テ大ニ得失ヲ異ニスルモノ

ナレハ本縣ニ於テハ常ニ氣候ノ寒暖耕種ノ方法及ヒ物品ノ消流等ヲ勘査シ時々之ヲ勸奨指示スヘシ

第二項 耕地ハ豫メ一戸三町歩ト定メ移若ノ年ヨリ三ケ年間ニ必ス之ヲ墾了スヘシ而シテ尙餘力アリ更ニ増地ヲ請求スル者ニハ其確否ヲ檢査シ應分ノ地積ヲ貸與スルコトアルヘシ三ケ年ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ舉ケサル地所ハ臨機ニ引揚ケ或ハ他人ニ貸渡替ヲナスコトアルヘシ

第三項 豫定ノ耕地ヲ墾成スル爲メ毎戸必ス課程ヲ定メ新墾坪數ヲ日表ニ登記セシメ毎週其勤惰ヲ督視スヘシ

第四項 課程ハ雨雪其他實際就業シ得サル日數ヲ除キ一戸一日二十坪以上ノ耕地ヲ新墾スルモノトス若シ事故アリ其課程ヲ了ヘサルハ次ノ一週日間ニ於テ必ス之ヲ償ハシムヘシ

第五項 課程ヲ怠ルコト一ケ年間三回ニ及ブ者ハ其輕重ヲ酌量シ輕

キハ五日乃至十日重キハ一月乃至三月全家米蠲贈ノ貸與ヲ停止スヘシ

第六項 穀菽及ヒ藍麻菜種ノ類凡ソ地方ノ物産トナスヘキモノハ成ルヘク之ヲ勸奨シ漸次其販路ヲ開カシムヘシ

第七項 毎歲播種ノ耕産ハ豫メ其段別及種類ヲ詳記シテ届出ヘシ本縣ハ之ヲ調査シ異見アルハ更ニ其段別ヲ増減シ又ハ種類ヲ改撰セシムヘシ

第八項 日々就業ノ時間及ヒ開墾ノ順叙ハ別ニ定メタル細則ヲ遵守スヘシ

第九項 凡ソ此舉ノ方法ハ本縣ニ於テ擔當官吏ヲ實地ニ派シ其事業ヲ督視シ勤惰ヲ查察セシムヘシ若シ其指揮ニ背ク者ハ本條第五項ニ準據處分スヘシ

第五條 貸與ノ規程

以上假屋ノ仕様建坪及繪圖面等ヲ檢査シ積書ノ金員相當ト認ムルハ出貸金額ヲ三分シ其一分ヲ作事着手ノ際ニ貸與シ殘ル二分ヲ假屋落成ノ後下渡スヘシ

陸路荷物運送費

以上着船場ヨリ移住地迄六里以上十里未満ハ一斤金二圓五十錢十里以上二十里未満ハ全上金五圓二十里以上三十里未満ハ同上金七圓五十錢三十里以外ハ全上金十圓ヲ貸下ヘシ

第三項 米及農具ノ類凡ソ現品ヲ以テ貸下ヘキモノハ其時價ヲ積算シテ出貸金額ニ組入ルヘシ

第四項 貸與金ハ其支出ノ遲速ニ係ハラヌ都テ各自移着ノ月ヨリ起算シ滿七ケ年間無利子据置翌八ケ年目ヨリ向二十ケ年賦ニ平均シ毎年十一月三十日限り返納セシムルモノトス

但若シ期日ニ至リ滞納スル者アルハ該金額ニ年一割二分ニ

相當スル利子ヲ課シ滞納日數ニ應シテ徵收スヘシ

第五項 凡ソ金品ヲ貸與スルニハ先ツ第二號書式ノ仕出ヲ出サシメ之ヲ檢査シテ其謬ナキヲ認メハ更ニ第三號書式ノ證書ヲ徵シテ下渡スヘシ

第六項 出生死亡ハ其都度必ス届出シメ貸與金支出ノ證憑ニ供スヘシ而シテ其出生者ニハ届書受理ノ日ヨリ之ヲ貸與シ死亡者ニハ死去ノ日ヨリ停止スヘシ

第七項 貸與金額皆納ノ日迄ハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣貸讓與シ又ハ書入質入ト爲スヲ許サス

第八項 已チ得サル事故アリ届濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ歸村スルキハ不在中尙成規ノ米及抽附料ヲ貸與スヘシト雖モ若シ其日數六日以外ニ及フキハ歸着届書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下ザルヘシ而シテ其日數ハ控除ニ歸スヘシ

第九項 凡ソ規則ニ悖リ業務ヲ惰リ第四條第五項ノ貸與ヲ停止セ
シ後尙ホ課程ヲ怠リタルノ場合ニ於テハ將來一切ノ貸與ヲ停止
シ且ツ既ニ貸下タル金額ハ年賦返納ノ約ニ係ハラス即時ニ之ヲ
完納セシムヘシ

但即時完納シ得サルキハ家屋及農具其他一切ノ所有物ヲ公賣
シテ其代價ヲ追徴シ尙ホ不足ヲ生スルキハ連借人ヲシテ辨償
セシムヘシ

第六條 雜則

第一項 移住者便利ノ爲メ二十戸ヲ以テ一組トシ每組ニ總代一名
ヲ置キ都テ戸長ノ指揮ニ從ヒ組内ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ
第二項 總代ハ移住者中ヨリ公撰シ戸長ノ認可ヲ得ルモノトス
第三項 總代ハ諸般ノ公務ヲ組内ニ傳ヘ又ハ組内ノ勤惰ヲ具シテ
戸長ニ報告スルヲ得

第四項 總代ハ官給ヲ與フルノ限ニアラス

第五項 組合中ハ平常親睦ヲ旨トシ凡ソ天災生死等緩急相救ヒ吉
凶相助シルノ情誼ヲ厚フシ決シテ疎隔ナキヲ務ムヘシ

(戸籍調ハ一般ノ例規ニ倣ソヘシ)

第一號書式

移住願

明治十六年甲第二十五號御布達移住士族取扱規則ヲ遵守シ御縣下
へ移住農業一途或ハ農家ニ緊要關係ノ何々職工ヲ以テ家産相營ミ
度候間移住ノ儀御許可被成下度別紙戸籍明細調書相添此段奉願候
也

何府縣下何國何郡何村何番地士族

何 某 印

何 某 印

年 號 月 日 全

全

何 某 印

札幌縣令某殿

前書出願ノ趣相違無之候也

戶 長

何 某 印

第二號書式(農具及假屋作料持物運送費等ノ仕出書式ニ此例ニ準スヘシ)

明治何年何月分御貸與米金仕出

一米何程

何 誰

內譯

家族何人

七年以上六十年未滿

何 人

米何程

但一人ニ付一日金米一錢五厘合

七年未滿六十年以上

米何程
金何程

何 人

但一人ニ付一日金米三錢合

(以下每戶此例ニ倣ヒ列記スヘシ)

合米何程
金何程

右ハ本月何月一日ヨリ何日迄日數何日分米金書而ノ通御貸與被下
度因之仕出候也

戶長

年 號 月 日

何 誰 印

總代

何 誰 印

第三號書式(農具及假屋作料持物運送費等ノ仕出書式ニ此例ニ準スヘシ)

印 紙
貼 用

証

一金何程

是ハ明治何年何月分御¹與米金七年以上六十年未滿何人七年未滿六十年以上何人合何人分

右御貸與相成正ニ拜借仕候ニ付テハ都テ御規則ノ通相心得聊カ無和違返納可仕候萬一期限相滯候等不都合ノ儀有之候節ハ本人ニ係ハラス連借人ニ於テ悉皆辨納可仕候爲後日拜借証書如此ニ候也

拜借人

年 號 月 日

何 誰 印

全

何 誰 印

札幌縣令某殿

○甲第三十四號

士族移住民取扱規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

明治十六年六月二十九日 根室縣令湯地定基

(別冊)

士族移住取扱規則

第一條 凡ソ他道ノ士族貧困ニシテ自力移住不能ハサルモノ本縣管内へ送籍移住シテ農業及漁業ニ従事セント欲スル者ニ限リ明治十五年度ヨリ一ケ年五十戸ツ、向八ケ年間移住ヲ許可スヘキ爲メ此規則ヲ施行スヘキモノトス故ニ志願者一戸内ニ是強職業ニ耐フヘキ男女ニ人以上アルモノ目途ノ當否ヲ審査シ若實ナルモノハ農商務卿へ稟議ノ上許可スヘシ但士族ニシテ農家漁家緊要ノ關係ヲ有スル職工ニ従事セント欲スルモノハ本文ニ準據スルヲ得

第二條 農業ヲ以テ移住ヲ許スヘキ國ヲ釧路根室北見ノ三ヶ國トシ其着手ノ順序ヲ二次ト定メ釧路根室ヲ第一着ニ北見ヲ第二着

十七年四月八日農商務省第十號達ヲ以テ第二條ヲ第三條トナシ以下順次繰下ケ更ニ第二條ヲ加

フ其違ハ後ニ

十七年四月八日
日機商務省第十號達ヲ以テ
第四條中ヲ改正
州除ス其違ハ後ニ出

トナシ順次移住セシムヘシ漁業ヲ以テ移住ヲ許スヘキ國ヲ千島國トス

第三條 移住セシムル期節ヲ毎年五月ヨリ十一月ノ間トス

第四條 前條四ヶ國ノ中地所ヲ撰ノテ左ノ十二ヶ所トシ一ヶ所ヘ同時移住ノ戸數ヲ五十戸トナス

但五十戸以上十戸或ハ二十戸ツ、移シントスルキハ其數五十戸ニ充ツルヲ待テ之ヲ移スヘシ

根室國

根室郡温根沼 百戸

同郡厚別村 百戸

釧路國

厚岸郡濱中山中ノコベリベツ 百戸

全郡真龍村 二百戸

釧路郡ユリ白糖郡ニ至ル平原 三百戸

釧路郡釧路川沿岸 百戸

川上郡塘路村 五十戸

北見國

紋別郡湧別村 百戸

網走郡網走村 二百戸

常呂郡常呂村 五十戸

千島國

國後郡泊村 五十戸

擇捉郡擇捉村 百戸

第五條 移住者ハ別紙書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本廳ヘ願出ヘシ

第六條 此規則ニ順テ移住セシ者ハ當初ヨリ二十五ヶ年間他ノ營

業ニ移ルヲ許サス若シ中途廢疾又ハ負傷等ノ故ヲ以テ其業ニ堪
ヘサルキハ其事實ヲ具シテ願出ヘシ

第七條 移住地百物運搬ノ便利ヲ計リ一戸毎ニ區畫ヲ正フシ貸與
地ヲ割渡スヘシ

第八條 農業ヲ目的トナシ移住スル者ハ一戸ニ付宅地千坪開墾地
一萬五千坪以内ノ地所ヲ貸渡シ貸地年季ハ貸渡ノ月ヨリ滿七ケ
年トシ其間貸地料ヲ徴セス素地代價千坪金五十錢ヲ超ヘサルノ
割ヲ以テ開墾地トナリタル地所ニ限り滿季後滿三ケ年間ヲ素地
代價徴收ノ期限トス該期限内上納ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附
シテ私有地トナスヘシ

第九條 貸渡地ノ内耕地九千坪ハ移若ノ年ヨリ三ケ年間ニ必ス墾
成スヘシ若シ三ケ年間ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ舉ケサルキハ其未
墾ノ地所ヲ臨機ニ引揚ケ或ハ他人ニ貸渡替ヲナスコトアルヘシ

第十條 第八條ノ貸地滿季後二十ケ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト
定メ地租ヲ徴收スヘシ但素地代價徴收期年内ニ在テ素地代價未
納ノ分ハ全上地租同一額ノ貸地料ヲ徴收スヘシ

第十一條 耕宅地ノ外山林原野ヲ一村若クハ數村ノ共有地ニ拂下
クルコトアルヘシ

第十二條 山林拂下ノ順序ハ成規ニ據ルヘシ但其代價ハ實際ヲ酌
量シ拂下ノ年ヨリ三十ケ年以内ノ年賦上納ヲ許可スルコトアルヘ
シ

第十三條 既ニ拂下タル山林原野ハ永久保存ノ方法ヲ立テシメ其
樹木ハ自家建築及薪炭用ノ外濫リニ伐採スルヲ許サス

第十四條 貸出スヘキ金額ハ一戸金三百六十三圓ニ超ヘサルノ額
ヲ程度トス而シテ其農業者ニハ本條及ヒ第十九條第二十條第二
十一條ニ依リ漁業者ニハ第十六條第十八條第十九條第二十條第

二十一條ニ依リ貸出チナスヘキモノトス

一新墾アラテ 一個

但三頭率

一麻製牽馬具 四頭分

一耕馬 五頭

一ハロー 一個

右ハ移住初年度ニ限リ十戸ヲ一組トナシ貸與ノ分

一鋤 三挺大ニ

一鐮録山刀 各一挺

一鎌 二挺兼刈一

右ハ移住初年度ニ限リ毎戸貸與ノ分

以上諸器具ノ修補等ハ自辨クルヘシ

第十五條 移住シテ特別ナル官ノ保護ヲ受クル期限内ハ左ノ種類

ヲ擴張セシメ管應ニ於テ其收穫物販賣ノ途ヲナシ與フヘシ

大小麥

麻

蕎麥

大小豆

粟

第十六條 漁業ヲ目途トシ移住スルモノハ千島國地方ニ於テ新開

ノ漁場ヲ撰ヒ一戸ニ付一ヶ所或ハ二ヶ所ヲ貸與シ貸渡年季ハ貸

渡ノ月ヨリ滿五ケ年トシ其間貸地料ヲ徵セズ素地代價ハ千坪金

七十五錢ヲ超ヘサルノ割ヲ以テ開地トナリタル地所ニ限リ滿季

後滿三ケ年間ヲ素地代價徵收ノ期限トス該期年内上納ノモノニ

ハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トナスヘシ

第十七條 第十六條貸地滿季後十ケ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト

定メ地租ヲ徴收スヘシ但素地代價徴收期年内ニ在テ素地代價未納ノ分ハ全上地租同一額ノ貸地料ヲ徴收スヘシ

第十八條 漁業目途ニテ移住ノモノニハ十五戸ヲ一組トナシ金額千八百六十六圓以内ヲ以テ移住初年ニ限り左ノ漁船并ニ漁具ヲ貸與スヘシ

- 一 圖合船 二 艘
 - 一 ナヨロ船 一 艘
 - 一 持府船 二 艘
 - 一 建網 一 統
 - 一 引網 一 統
 - 一 錨 十一 挺
 - 一 漁舎 一 棟
- 以上諸器具ノ修補等ハ自辨スヘシ

第十九條 家屋ハ農漁ノ別ナク一戸十五坪ノ草小家一棟新築費トシテ金九十圓以内ノ額ヲ二期^{着手ノ際}落成ノ上ニ貸與スヘシ但官ニ於テ新築ノ上貸與セラレノヲ請フ者アルハ其請願ヲ許スヘシ但自費ヲ加ヘ建家ノ坪數ヲ増加セントスル者ハ本人ノ隨意ニ任スヘシ

第二十條 食料ハ人員ニ應シ農業者ハ若籍ヨリ二ケ年漁業者ハ一年六ケ月間左ノ割合ヲ以テ玄米及鹽附料貸與スヘシ

- 玄 米
- 七年以上六十年未満一日一人玄米五合七年以上六十年未満一日一人米三合ノ割合ヲ以テ貸與スヘシ
- 鹽附料
- 七年以上六十年未満一ケ月一人金四十五錢七年以上六十年未満一ケ月一人金三十錢ノ割合ヲ以テ貸與スヘシ

第二十一條 若港ヨリ移住地迄陸路ノ距離六里以上アルモノニ限
リ荷物運送費トシテ若干ノ金額ヲ貸與スルコトアルヘシ

第二十二條 第十四條ヨリ第二十一條ニ於テ貸與シタル物品ノ金
額ハ無利子七ヶ年据置キ第八ヶ年目ヨリ向フ二十ヶ年賦ヲ以テ
毎年十一月三十日限リ返納スヘシ

但貸與シタル物品代價ハ其年度末決算ノ上各自ニ報告スヘシ

第二十三條 移住人保護獎勵監督ノ爲就業課定ヲ定メ其係ヲシテ
毎ニ勤惰ヲ糺スヘシ若シ懶惰ニシテ其課程ヲ勉メサルモノアル
キハ臨機貸與ヲ停止スヘシ然ルモ尙ホ課程ヲ怠ルモノハ既ニ貸
下ケタル金額ハ年賦返納ノ規則ニ係ハラス即時ニ之ヲ完納セシ
ムヘシ即時完納シ得サルキハ家屋及農具其他一切ノ所有物ヲ公
賣シテ其代價ヲ追徴シ尙ホ不足ヲ生スルキハ連借入ヲシテ辨償
セシムヘシ

第二十四條 已テ得サル事故アリ屆濟ノ上一時他ニ旅行スル者往
返日數五日以内ニ歸村スルキハ不在中尙ホ成規ノ米及鹽附料ヲ
貸與スヘシト雖モ若シ日數六日以外ニ及フキハ歸着屆書受理ノ
日マテ一切之ヲ貸下サルヘシ而シテ其日數ハ扣除ニ歸スヘシ

第二十五條 移住人生死亡ハ其都度必ス届出ヘシ其出生者ニハ届
書受理ノ日ヨリ成規ノ貸與ヲナシ死亡者ニハ死亡ノ日ヨリ停止
ス

第二十六條 貸與金額皆納ノ日マテハ地所及家屋農具ノ類一切之
ヲ他ニ賣買讓與シ又ハ書入質入ト爲スコト許サス

書式 (用紙五通美濃)

移住願

私共儀

明治十六年御縣甲第

號御布達士族移住取扱規則ニヨリ農業ノ

目途ヲ以テ某年某月ヨリ御管下某國郡村へ移住仕度ニ付御詮議ノ上御許可被成下度然レ上ハ御成規ハ勿論時々ノ御命令ヲ遵守シ誓テ成業可仕候戸籍書寫相添連署ヲ以テ此段奉願上候也

某府縣町番地

士族

明治 年 月 日

姓 名 印

年 齡

以下同前連名

右總代人 二名(移住願人)

根室縣令某殿

本年本縣甲第九十一號布達ハ前ニ出

○明治十六年十一月十四日滋賀縣甲第百貳拾五號布達本年八月本縣甲第九十一號ヲ以テ北海道へ移住請願ノ手續及布達置候處今般其筋ヨリ達ノ次第モ有之ニ付右布達本文へ左ノ但書追加

候條此旨布達候事

但士族ノミニテハ農事ニ不馴ナルヲ以テ自然熟練ノ農家ヲ要用ト認ムルハ移住志願ノ士族百戸ニ付農家即平五戸ノ割ニ至ル迄ハ聯合シテ渡航ノ事ヲ請願スルヲ得此場合ニハ士族同一ノ保護貸與ヲナスヘキ事

○考明治十七年四月八日農商務省第拾號達府縣

昨十六年八月當省第九號達別冊根室縣甲第三十四號布達移住士族取扱規則中左ノ通改正追加候旨該縣ヨリ届出候ニ付此旨相達候事

○
第一條ノ次へ左ノ一條ヲ加へ元ノ第二條ヲ第三條トシ以下順次條項ヲ繰下シ
第二條 士族ノミニテハ農事ニ不馴ナルヲ以テ自然熟練ノ農家

十六年當省第九號達別冊ハ前ニ出

ヲ要川ト認ムルハ移住志願ノ士族百戸ニ付農家即平五戸ノ
割ニ至ル迄ハ聯合シテ渡航ノ事ヲ請願スルコトヲ得此場合ニハ
士族同一ノ保護貸與ヲナスヘシ

第四條 一行目地所ヲ撰ノ下シテ左ノ十二ヶ所トシ一個所ヘノ十
四字ヲ剛リヒノ一字ヲ挿入ス三百五十四丁
四百五十四丁
前同條五行目根室國以下ノ五行ヲ削除ス三百五十四丁
八百五十四丁

○第貳款 商工業ノ許否并取締

第三百五拾四條

各府縣下酒造營業人其他諸營業者國稅不納處分
ノ末官損ニ屬セシ者ノ氏名并ニ再營業出願ノ節
取扱方

○明治十六年七月六日滋賀縣丙第七拾七號達郡役所ヘ

別紙記名ノ者京都府ニ於テ酒造營業罷在候處酒類造石稅不納ニ付
夫々成規ノ通り處分相成候得共頭書稅金官損ニ歸シ候ニ付自然當
管內ヘ轉居シ再營業出願致候節ハ該金額徵收ノ上其旨通知相成度
旨同府ヨリ照會有之候條若シ右様出願候際ハ成規ノ通り不納金完
納セシメ該金額并稅目人名等速ニ本廳ヘ可届出此旨相達候事列紙
金額ハ縣廳郡衙ヲ除ク外
必用ニ非サルニ付之ヲケル

○明治十六年七月十四日滋賀縣丙第八拾貳號達郡役所ヘ
別紙人名ノ者共鳥取縣及ヒ岐阜縣ニ於テ酒造營業罷在候處酒類造

石税不納ニ付夫々成規ノ通處分相成候得共頭書ノ税金官損ニ歸候
ニ付自然當縣下へ轉居シ再營業出願致候節ハ該金徴收ノ上其旨通
知相成度旨同縣ヨリ照會有之候條若シ右様願候節ハ成規ノ通不納
金完納セシメ該金額并ニ税目人名等速ニ本廳へ可届出此旨相達候
事別紙人名等ハ縣廳郡衙ヲ除クノ
外必用ニ非サルニ付之ヲ略ス

○明治十六年七月二十三日滋賀縣丙第八拾四號達所役
別紙ノ人名愛知縣高知縣管内ニ於テ酒造人力車煙草小賣及牛馬賣
買賣藥營業罷在候處税金不納ニ付夫々成規ノ通處分相成候得共頭
書ノ税金官損ニ歸シ候ニ付自然當管内へ轉居再營業致出願候節ハ
該金徴收ノ上其旨通知相成度旨同縣ヨリ照會有之候問若シ右様出
願候際ハ成規ノ通不納金完納セシメ該金額並税目人名等速ニ本廳
へ可届出此旨相達候事別紙人名等ハ縣廳郡衙ヲ除クノ
外必用ニ非サルニ付之ヲ略ス

別紙人名ノ者共大坂府京都府ニ於テ酒造營業罷在候處酒類造石税
不納ニ付夫々成規ノ通處分相成候得共頭書ノ税金官損ニ歸シ候ニ
付自然當管内へ轉居シ再營業出願致候節ハ該金徴收ノ上其旨通知
相成度旨同府ヨリ照會有之候問若シ右様願出候際ハ成規ノ通不納
金完納セシメ該金額并税目人名等速ニ本廳へ可届出此旨相達候事
別紙人名等ハ縣廳郡衙ヲ除クノ
外必用ニ非サルニ付之ヲ略ス

○明治十六年八月九日滋賀縣丙第九拾貳號達所役
別紙人名ノ者共大分縣及ヒ高知縣ニ於テ酒造營業中造石税不納ニ
付成規ノ通處分濟頭書ノ税金官損ニ歸シ候ニ付自然本縣下へ移住
シ再ヒ該營業出願候節ハ其不納金一時完納セシメ速ニ本廳へ可申
出此旨相達候事別紙人名等ハ縣廳郡衙ヲ除クノ
外必用ニ非サルニ付之ヲ略ス

○明治十六年八月九日滋賀縣丙第九拾三號達所役
別紙ノ通福井縣ヨリ通知有之候ニ付自然本縣下へ移住シ再ヒ該營

業出願候節ハ頭書不納金一時完納セシメ速ニ本廳へ可申出此旨相達候事（別紙人名等ハ縣廳御付之ヲ除ク）

○明治十六年八月十八日滋賀縣丙第九拾七號達所役

別紙記名ノ者共山口縣ニ於テ税金不納ニ付成規ノ通處分相成候末頭書ノ金員不足官損ニ歸候ニ付自然當縣内へ轉居シ再ヒ營業出願致候節ハ該金徵收ノ上其旨通知有之度趣同縣ヨリ通牒有之候條若シ出願候節ハ不納金完納セシメ金額及ヒ税目人名等速ニ本廳へ可届出此旨相達候事（別紙人名等ハ縣廳御付之ヲ除ク）

○明治十六年八月二十七日滋賀縣丙第九拾九號達所役

別紙人名ノ者山形縣於テ酒造讓石税不納頭書ノ税金官損ノ旨同縣ヨリ通知有之候條例ノ通可相心得此旨相達候事（別紙人名等ハ縣廳御付之ヲ除ク）

○明治十六年十月二日滋賀縣丙第百拾貳號達所役

別紙人名ノ者青森縣ニ於テ酒類造石税不納ニ付成規ノ通處分ノ末頭書ノ税金官損ニ屬シ候旨同縣ヨリ通知有之候條例之通可相心得此旨相達候事（別紙人名等ハ縣廳御付之ヲ除ク）

○明治十六年十一月二日滋賀縣丙第百貳拾壹號達所役

別紙人名ノ者福井縣ニ於テ納税不納ニ付成規ノ通可相心得此旨相達候事（別紙人名等ハ縣廳御付之ヲ除ク）

○明治十六年十一月二十八日滋賀縣本局付屬通知

本月二日付福井縣納税不納ノ件丙第百二十三號ヲ以テ達相成候該達書ノ番號ハ丙第百二十一號ノ誤記ニ付御訂正有之度候也

○明治十七年一月十日滋賀縣丙第四號達所役

別紙人名ノ者和歌山縣新瀉縣ニ於テ酒類造石税不納ニ付成規ノ通處分ノ末頭書ノ税金官損ノ旨通知有之候條例ノ通可相心得此旨相

十六年十一月二十八日滋賀縣本局付屬通知ヲ以テ（百二十三號）（百二十一號）ト訂正ス

本月二日付達ハ前ニ出

達候事（別紙人名等ハ縣廳郡衙ヲ除ク）

○明治十七年三月六日滋賀縣丙第貳拾壹號達所（郡役）

福岡縣三重縣新瀨縣富山縣等ニ於テ別紙記名ノ者酒類造石稅其他稅金不納ニ付成規ノ通處分ノ末頭書ノ稅金官損ノ旨通知有之候條例ノ通可相心得此旨相達候事（別紙人名等ハ縣廳郡衙ヲ除ク）

○明治十七年五月五日滋賀縣丙第三拾八號達所（郡役）

別紙人名ノ者札帳縣ニ於テ酒類造石稅不納ニ付成規ノ通處分ノ末頭書ノ稅金官損ノ旨通知有之候條例ノ通可相心得此旨相達候事（別紙人名等ハ縣廳郡衙ヲ除ク）

○明治十七年六月十四日滋賀縣丙第五拾五號達所（郡役）

別紙人名ノ者茨木縣ニ於テ稅金不納ニ付成規ノ通處分ノ末頭書ノ稅金官損ノ旨通知有之候條例ノ通可相心得此旨相達候事（別紙人名等ハ縣廳郡衙ヲ除ク）

第三百五拾五條

各府縣國稅地方稅不納ノ末官損ニ歸シタル者再營業ノ節取締上通達方ノ事

○明治十七年二月二十六日滋賀縣丙第拾六號達所（郡役）

各府縣國稅地方稅未納者ニシテ該金官損ニ歸シタル後テ當縣下ニ移住シ營業ヲ再ヒ營マントスル時ハ右未納ニ係ル稅金徵收及ヒ營業鑑札攜帶ノ儘逃走該鑑札引揚等ノ件官報廣告欄内ニ騰載ノ分ハ別段當廳ヨリ相達セサルニ付右等ノ儀ハ官報上ニテ了知ノ上例ノ通り可取計此旨相達候事

第三百五拾六條

遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優鑑札改正離形

○明治十七年五月三十一日滋賀縣丙第四拾八號達所（郡役）

遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優優鑑札別紙ノ通改正候條此旨相達候事

別紙

表面

但摺色遊藝師匠藍遊藝稼人黃

第三百五拾七條 理髮人鑑札調製方ノ事

○明治十七年六月九日滋賀縣丙第五拾貳號達所^{郡役}

本年^五月本縣甲第五十四號布達營業稅雜種稅賦課規則中理髮人鑑札ノ儀ハ同丙第四十八號達遊藝師匠其他ノ鑑札ニ準シ其役所ニ於テ適宜相製シ下附可致此旨相達候事

第三百五拾八條 水車營業鑑札廢止ノ事

○明治十七年六月九日滋賀縣丙第五拾壹號達所^{郡役}

水車營業鑑札下付ノ儀來ル七月一日ヨリ廢止候條此旨相達候事

本年本縣甲第五十四號布達ハ第百二十九條ニ出同丙第四十八號達ハ前ニ出

○第三款 勸業附リ農商工ニ係ル報告并諸表

第三百五拾九條 勸業諮問會及ヒ勸業委員設置心得書

○明治十六年七月三十一日滋賀縣甲第八拾八號布達

〔本文ハ第六拾條ニ出〕

第三百六拾條 勸業委員及ヒ各會設置準則

○明治十六年十一月二十六日滋賀縣甲第百三拾五號布達

〔本文ハ第六拾貳條ニ出〕

第三百六拾壹條 勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ處務ノ順序等評定方ノ事

方ノ事

○明治十六年十一月二十六日滋賀縣甲第百三拾六號布達

本年^五月太政官第十三號布達中第五條勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評定ニ任スヘキノ處該會設置ナキ地方ハ其手續ヲ爲スヘキタメ之ニ代フルニ區町村從

第十三號布達ハ滋賀縣ノ布令ニ非ス故ニ登錄セズ

來慣行ノ和談會等ニ於テ評定スルモ昔シカラサル旨其筋ヨリ達相成候條此旨布達候事

第三百六拾貳條 勸業委員撰舉上中方ノ事

○明治十六年十二月十四日滋賀縣丙第百四拾號達_{郡役所}今般本縣甲第百三十五號ヲ以テ及布達候勸業委員撰舉ノ儀該部内ヨリ其多數者ノ族籍姓名ヲ記載シ差出候ハ、其役所ニ於テ適任ノ者相撰ニ添申候様可致此旨和達候事

第三百六拾三條 勸業世話役廢止ノ事

○明治十七年二月二十六日滋賀縣乙第拾三號達_{郡役所 長役場} 戶

明治十四年本縣乙第十五號ヲ以テ勸業世話役増置ノ儀和達候處今般各郡ニ於テ勸業委員設置候ニ付テハ右世話役自今和廢候條此旨和達候事

第三百六拾四條 農工商業者同業組合準則

本年甲第百三十五號布達ハ第六十二條ニ出
十四年乙第十五號達ハ初編第六百七十三條(第四卷九丁)ニ出

○明治十七年十二月九日滋賀縣甲第百四拾號布達

營業上福利ヲ増進シ監惡ノ弊害ヲ矯正スル爲メ同業者組合ヲ結ヒ規約ヲ定ムル者ハ自今別紙同業組合準則ニ可準此旨布達候事

(別紙)

同業組合準則

第一條 農工商ノ業ニ従事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスル時ハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ受クベシ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的トナスベシ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲クベキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及ヒ組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及ヒ事務所ノ位置

第三項 目的及ヒ方法

第四項 役員ノ撰舉法及ヒ權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及ヒ退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及ヒ賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナスコト

第四條 組合ノ設アル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スベシ

但事業ノ規模及ヒ趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キヤ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アル時ハ縣廳ノ認定ヲ請フベシ

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得

此布達ハ十七
年九月十五日
滋賀縣甲第九
十七號布達ヲ
以テ全部廢ス
ト雖モ参考ノ

第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及ヒ費用決算表ヲ毎年縣廳ニ報告スベシ

第七條 規約ヲ改正スル時ハ更ニ認可ヲ受クヘシ

第八條 分立又ハ合併スル時ハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ受クベシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り認可ヲ受クベシ但共聯合ニ府縣以上ニ涉ル時ハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フベシ

第三百六拾五條 水産保護例

（參）明治十六年十一月二十一日滋賀縣甲第三百三拾壹號布達

水産保護例別紙ノ通相定候條此旨布達候事（別紙ハ電頭ノ通）

第三百六拾六條 漆樹殺掻ノ弊習ヲ去リ栽植保護ニ盡カスベキ事

○明治十七年四月四日滋賀縣論達

タメ本文ノミ
編入ス但其布
達ハ第四百二
十三條ニ出

十二年本縣乙
第十二號達原
本ノマ、恐ク
ハ乙第十九號
達ノ誤ナラン
農事通信規則
ハ初編第六百
七十三條第
四卷二丁ニ
出

本邦漆器ノ儀ハ世界無比ノ名産ニ候處近年漆樹殺掻(殺掻トハ漆樹
ヲ伐採シ水ニ
浸シ切ロキヨリ出ツル所ノ)ノ法流行スルヨリ隨テ濫伐ノ弊底止スル
ナキノ有様ナルヲ以テ既ニ漆液ノ缺乏ヲ告ケ漆器製造上頗ル影響
ヲ來シ難捨置趣ヲ以テ其筋ヨリ照會ノ次第モ有之候條生產地方ニ
於テハ速ニ殺掻ノ弊習ヲ去リ力ヲ栽植保護ニ盡シ漆液ヲシテ豊澤
ナラシメ候様注意可致此旨諭達候事

第三百六拾七條 農事通信規則ヲ廢シ更ニ勸業通信規則制定ノ事

○明治十七年三月三十一日滋賀縣乙第貳拾壹號達郡役所、局長役
場、勸業委員ヘ
農商工山林ノ盛衰消長ヲ詳悉スヘキ爲メ生産消費ノ數量ヲ調査ス
ルハ勸業ノ要務ナルヲ以テ遍シ全國通信ノ氣脈ヲ連絡ス可キ旨其
筋ヨリ達ノ次第モ有之候ニ付今般明治十二年ハ本縣乙第十二號達
農事通信規則相廢シ更ニ勸業通信規則別紙ノ通和定候條此旨相達
候事

但シ通信事項及ヒ手續ハ勸業課ヨリ通牒可致事

別紙

勸業通信規則

第一條 農商工山林ニ關スルハ此規則ニ據リ各郡役所及勸業委員
ヨリ勸業課ニ報告シ勸業課ハ各郡役所又ハ勸業委員ニ諮問應答
ス可シ

但農商務省主務局ヨリ直ニ諮問アルトハ勸業委員ハ之ニ應答
スヘシ

第二條 通信ヲ分チテ定期報臨時報ノ二種トス

第三條 定期報トハ通信事件中特ニ報告期限ヲ定メタルモノヲ云

第四條 臨時報トハ通信事件中報告期限アルト否トニ關セス臨時

報告ヲ要スヘキモノヲ云フ

第五條 報告上物質形狀等文辭ニ尽シ難キモノハ圖畫寫真雜形若

十七年四月十
五日滋賀縣乙
第二十三號達
ヲ以テ農商務
省主務局ヘ直
ニ報告スヘキ
事項ヲ示ス其
達ハ後ニ出

官氏原本ノマ
ハ恐クハ官氏
ノ誤ナラン

シクハ見本等ヲ添へ數量比例歩合等ニ係ルモノハ表ヲ附ス可シ

第六條 報告ハ可成平易ノ文字ヲ用ヒ又數量歩合等ニシテ地方慣用ノ稱呼アルモノ及方言等ハ解説ヲ加フ可シ

第七條 郡役所又ハ勸業委員ニ於テ質問ヲ要スル事件アルトハ其事由ヲ詳記シテ勸業課ニ質問スヘシ

第八條 定期及臨時報ノ外農商工山林ニ關シ尙報告スヘキ事項左ノ知シ

一 會社協會等ノ規則並ニ報告書又ハ官氏ノ著述編纂翻譯及報告書ハ可成現本ヲ送致スヘシ但著譯書等冊數浩濶ナルモノハ題名目錄及其要旨ノミヲ報告スルモ妨ケナシ

二 有功者ノ事蹟及履歷等ハ古今ニ拘ハラズ調査報告ス可シ

三 改良發明試驗ノ成績及該事業ニ關スル各地方從來ノ習慣新設ノ方法等ハ可成周密ニ報告ス可シ

本年本縣乙第
二十號原本ノ
マ、恐クハ乙
第二十一號ノ
誤ナラン但乙
第二十一號特
ハ前ニ出

四博覽會共進會品評會集談會等ノ開設其開閉ノ期日及出品談話ノ景況等ヲ報告ス可シ

第九條 第一條但書ニ依リ農商務省主務局へ直ニ文書ヲ往復シケルルハ其寫ヲ添へ勸業課へ申報ス可シ

○明治十七年四月十五日滋賀縣乙第貳拾三號郡役所、戶長役、勸業委員へ

本年三月本縣乙第二十號ヲ以テ相達候勸業通信規則ニ依リ報告スヘキ事項中左ノ二項ハ勸業委員ヨリ直ニ農商務省主務局へモ報告スヘシ此旨相達候事

○

一 蟲害蔓延ノ勢アルトキ

一 牛馬傳染病劇烈ノ徵候アルトキ

第三百六拾八條 特有及ヒ普通物產表ヲ廢シ更ニ農商工務統計調査方法制定ノ事

十二年本縣乙
第二十號達ハ
初編第六百八
十三條(第四
卷三十一)ニ
出

○明治十七年十月二十七日滋賀縣乙第七拾三號達郡役所、戸長役物産取調ノ儀ニ付去ル明治十二年本縣乙第二十號ヲ以テ相違置候處右ハ相廢シ更ニ別紙ノ通農商工務統計調査法方相定候條右ニ照準詳細取調可差出此旨布達候事

(別紙)

農務統計

一農務統計事項ヲ定ムルノ左ノ如シ

第一項 土地

耕作地、自作地、小作地、及ヒ被害田圃ハ表式第一號ヨリ第四號マテニ倣ヒ毎年調査シ次年一月中旬ニ報道スヘシ

第二項 戸口

農民戸口、自作人、小作人、及ヒ漁民戸口ハ第五號ヨリ第八號マテニ倣ヒ五年毎ニ一月一日ノ現在戸口數ヲ調査シ四月中旬ニ報道

スヘシ

但明治十八年ヲ初期トシ全二十二年ヲ第二期トシ爾後五年毎ニ調査スルモノトス

第三項 陸産物

田圃諸作物、製造料植物、果樹及ヒ食料、製造料ニ供スヘキ野生植物等ノ産額ハ第九號ヨリ第十六號マテニ倣ヒ毎年調査シ次年一月中旬ニ報道スヘシ

第四項 地益

田圃諸作物ノ損益ハ第十七號ニ倣ヒ毎年調査シ次年一月中旬ニ報道スヘシ

第五項 蠶茶

茶園、桑圃ノ反別ハ第十八號第二十號ニ倣ヒ五年毎ニ調査シ次年四月中ニ報道シ製茶、繭製糸及ヒ蠶卵紙等ノ産額ハ第十九號

第二十一號ニ倣ヒ毎年調査シ次年一月中報道スヘシ
但五年毎ニ調査スルモノハ第二項但書ノ年度ニ同シ

第六項 製糖

製糖ノ産額ハ第二十二號ニ倣ヒ毎年調査シ次年一月中ニ報道
スヘシ

第七項 家禽

家禽ハ毎年十二月三十一日現在ノ羽數及ヒ一ケ年間産出ノ卵
子トモ第二十三號ニ倣ヒ毎年調査シ次年一月中ニ報道スヘシ

第八項 家畜

牛馬ハ毎年十二月三十一日現在ノ頭數及ヒ一ケ年間減却ノ頭
數ハ第二十四號ヨリ第二十七號全傳染病ハ第二十八號ニ倣ヒ
毎年調査シ次年一月中ニ報道スヘシ
但牛馬減耗表ハ養牛畜馬表ニ拘ハラス一ケ年間賣屠斃ノ實

數ヲ掲載スヘシ

第九項 漁場漁船

漁場漁船ハ第二十九號第三十號ニ倣ヒ毎年調査シ次年一月中
ニ報道スヘシ

第十項 水産養殖

水族ノ養殖ハ第三十一號ニ倣ヒ毎年調査シ次年一月中ニ報道
スヘシ

第十一項 漁業收益

湖川ノ魚介苔藻鳥獸ノ漁獵額ハ第三十二號第三十三號ニ倣ヒ
毎年調査シ次年一月中ニ報道スヘシ

第十二項 製鮓

湖魚製鮓高ハ第三十四號表ニ倣ヒ次年一月中ニ報道スヘシ

第十三項 牛馬販賣及搾乳

一 中月原本ノ
マ、恐クハ一
月中ノ誤ナラ
シ

牛馬販賣頭數及價額ハ第三十五號第三十六號表ニ牛乳搾取高
ハ第三十七號表ニ倣ヒ每年前季一月ヨリ六月ヨリノ分七月十日後期七月
ヨリ十二月ノ分ハ次年一月十日マテニ報道スヘシ

第十四項 試作

試作所ハ一部或ハ一村ノ公共ニ屬シ其費途町村費ニ係ルモノ
ハ繼續新設ニ拘ラス第三十八號表ニ倣ヒ毎年三月中ニ報道シ
其結果ハ第三十九號第四十號表ニ倣ヒ毎年十一月中ニ報道ス
ヘシ

一 調査順序ヲ定ムルノ左ノ如シ

第一項 調査法

反別戸口及ヒ産額等郡テ一村ノ統計ヲ記入シ其價額ハ一村通
價ノ平均ヲ取リテ積算記入スヘシ

第二項 各村統計

戸長勸業委員立會各生産者ニ就キ精密調査ヲ遂ケ統計製表ノ
上戸長勸業委員連署ヲ以テ郡役所ヘ差出スヘシ

第三項 各郡統計

郡役所ニ於テハ郡中各村ノ統計ヲ採集シ郡別統計製表ノ上各
村統計表ヲ添付シ縣廳ヘ差出スヘシ

農務統計表式

第一號

田作付役列ハ一毛作ノ田ノハ其ノ中右方ニ添書シニ毛作
 以上ニ係ル分ハ左方ニ米記シ圖作付反列ハ其作ニ毛作
 ニ拘ラス現ニ作付セシ分ヲ掲ケ不作付役列ハ其作ニ毛作
 備考欄内ニ詳記スヘシ
 米原本

耕作地

何郡何村町

考 備	田	作 付	反 別	田	不 作	付 反	別

右之通相違無之候也

明治何年一月何日

戸長何ノ誰印
勘業委員何ノ誰印

第二號

自作地小作地

何郡何村町

考 備	田	自 作 地	計	田	小 作 地	計	田	合	計

右之通相違無之候也

明治何年一月何日

戸長何ノ誰印
勘業委員何ノ誰印

第七號

湖沼漁民戶口表

何郡何村町

考 備	專業		兼業	
	戶數	男	戶數	男
		女		女
		計		計

右之通和違無之候也

明治何年四月何日

戶長何ノ誰印
勸業委員何ノ誰印

第八號

河川漁民戶口表

何郡何村町

考 備	專業		兼業	
	戶數	男	戶數	男
		女		女
		計		計

右之通和違無之候也

明治何年四月何日

戶長何ノ誰印
勸業委員何ノ誰印

▲原本米字

第十三號 ▲前年ニ對スル増減理由ハ備考欄内ニ記スヘシ

農産表

第四

何郡何村町

四百六

品目	産額	前年比較		一貫目價
		増	減	
橘皮				
雁皮				
結香				
生蠟				
漆汁				
備考				

右之通相違無之候也

明治何年一月何日

戸長何ノ誰印
勸業委員何ノ誰印

▲三項共原本米字

第十四號

▲漬菜ハ江戸東京菜加茂菜夏菜等本表品目外ニシテ鹽漬トナスモノヲ合算スヘシ
▲▲本表列記ノ外産物アラハ除白ニ記入スヘシ
▲前年ニ對スル増減理由ハ備考欄内ニ記スヘシ

農産表

第五

何郡何村町

品目	産額	前年比較		一貫目價
		増	減	
糖膏(カ)アラ				
紅糖膏(ベニ)カアラ				
賦糖膏(チ)ミダイコン				
胡蘿蔔(ニ)ンジン				
牛蒡(ホ)ホリ				
百合根(ユ)リ				
蓮根(レ)ンコン				
慈姑(ク)カ				
葱根(ナ)ガイモ				
佛豆(ツ)クイモ				
山芋(ア)サトイモ				

農商工

四百七

▲三項共原本
米字

第十五號

農產表 第六

何郡何村町

▲大豆ハ江戶大豆又十六火角豆ヲ合算スヘシ其内裝共ニ食スルモノ
ハ貫豆ハ石ヲ以テ量ルヘシ
▲本表列記ノ外産物アラハ餘白ニ記入スヘシ
▲前年ニ對スル増減理由ハ備考欄内ニ記スヘシ

品目	産額	前年比較		價
		増	減	
玉蜀黍 (トウモロコシ)	貫			貫石ノ價
大豆 (サ)	石			
菜豆 (インゲマメ)	石			
胡麻 (ゴ)	石			
芥子 (カ)	石			
粟 (ケ)	石			
蕃椒 (トウガラシ)	石			
落花生 (ラククソセイ)	石			
亞麻 (ア)	貫			
亞麻仁 (アマニ)	石			

品目	産額	前年比較	價
韭 (ニ)	貫		
茄子 (チ)	貫		
胡瓜 (キ)	貫		
南瓜 (カ)	貫		
冬瓜 (カ)	貫		
錦冬瓜 (キ)	貫		
西瓜 (スイ)	貫		
甜瓜 (マク)	貫		
越瓜 (シロ)	貫		
菜瓜 (ア)	貫		
蒟蒻 (ヘ)	貫		
干瓢 (カ)	貫		
葛粉 (ケ)	貫		
晒蓆 (サ)	貫		
艾 (モ)	貫		
漚 (シ)	貫		

▲原本米字

第十六號

▲本表列記ノ外産物アラハ餘白ニ記入スヘシ
▲前年ニ對スル増減理由ハ備考欄内ニ記スヘシ

農産表

第七

何郡何

村町

品目	産額	前年比較		價	一貫目ノ價
		増	減		
柿 (カキ)					
干柿 (ホシガキ)					
梨 (ナシ)					
林檎 (リンゴ)					
桃 (モモ)					
杏 (アンズ)					
胡桃 (クルミ)					
柘榴 (ザクロ)					
枇杷 (ビロ)					
銀杏 (ギンナン)					

農商工

四百十三

備考

總計																				
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

右之通相違無之候也

明治何年一月何日

戸長 何ノ誰印
業勸委員 何ノ誰印

四百十二

第二十三號

家禽表

何郡何村

考備	種類	種數					前年比較	價	一個羽價
		雞	鴨	家鴨	洋鴨	全計			
		個	羽	個	羽	個	羽	個	羽

右之通相違無之候也

明治何年一月何日

戸長何ノ誰印
勸業委員何ノ誰印

蔗粟

考備	總計	計			
		蜜	黑糖	三盆	二半

右之通相違無之候也

明治何年一月何日

戸長何ノ誰印
勸業委員何ノ誰印

▲原本米字

第三十四號

▲本表列記ノ外製鮮アラハ餘白ニ記入スヘシ

湖魚製鮮表

何郡何村町

考備	總計	モロコ鮮	鯽鮮	種目	
				數	價
				貫	尾量
					一貫目ノ價

右之通相違無之候也

明治何年一月何日

戸長何ノ誰印
勸業委員何ノ誰印

原本米字

第三十五號

▲市場ヲサ開設シテ販賣シタルモノハ頭數ノ多少ニ

牛馬販賣表 第一

何郡何村町

合計	市場名稱						販賣頭數	全上價額	馬	販賣頭數	全上價額		
	雜種		外種		內種							牛	馬
	當歲	二歲以上	當歲	二歲以上	當歲	二歲以上							

右之通相違無之候也

明治何年何月何日

戸長何ノ誰印
勸業委員何ノ誰印

朱線ヲ引クヘン又輸出仕向先及輸入仕出元欄内ハ其關係ノ多キ二三ノ場所ヲ掲クヘシ

第三 四十三品ノ外其土地ニ因リ特ニ出入多キモノアレハ幾品ヲ問ハス之ヲ餘白ニ記入スヘシ

第四 本表米ノ部ニ糯米陸米ヲ合セ大麥ノ部ニ裸麥ヲ合セ〇赤砂糖ノ部ニ黑砂糖ヲ合セ〇鐵塊ニ砂鐵ヲ合スヘシ又熟鐵トハ板練細鐵ノ類ヲ合セ稱スモノトス

第一表

×ノ所ハ港灣ノ名稱ヲ掲クヘシ十港灣所在ノ地名

明治 年 × 物貨輸出入表 (十國郡町村)		調査シタル者ノ姓名		
商 品	輸 出		輸 入	
	量	價	量	價
一 米				
二 大麥				
三 小麥				
四 大豆				
五 小豆				
六 食糧				
七 醬油				
八 味噌				
九 味増				
十 酢				
十一 清酒				
十二 茶				
十三 白砂糖				
十四 赤砂糖				
十五 錫				
十六 銅				
十七 鐵				
十八 錫				
十九 銅				
二十 鐵				
二十一 錫				
二十二 銅				
二十三 鐵				
二十四 錫				
二十五 銅				
二十六 鐵				
二十七 錫				
二十八 銅				
二十九 鐵				
三十 錫				
三十一 銅				
三十二 鐵				
三十三 錫				
三十四 銅				
三十五 鐵				
三十六 錫				
三十七 銅				
三十八 鐵				
三十九 錫				
四十 銅				
四十一 鐵				
四十二 錫				
四十三 銅				
四十四 鐵				
四十五 錫				
四十六 銅				
四十七 鐵				
四十八 錫				
四十九 銅				
五十 鐵				

農商工

第二項 都邑商品ノ聚散

- 第一 調査ヲ要スル場所ハ戶數凡一千以上ノ都邑トス
- 第二 若シ全都邑ノ聚散ヲ調査スル能ハスシテ一部或ハ數部ヲ欠クモノハ(例ヘハ何筋ノ一方又ハ何々商會ノ分ハ調査シ難キノ類)其理由ヲ詳記スヘシ
- 第三 本表ニ記入方ハ輸入品ノ内土地ノ消費(土地賣捌高)ニ供シタルモノハ第一欄ニ又再ヒ輸出シタルモノハ第三欄ニ再輸出セラルモノ及土地ノ消費ニ供セサルモノハ第五欄ニ記入シ○土地産ノ内其地ニテ消費スルモノハ第二欄ニ他ニ輸出シタルモノハ第四欄ニ未タ消費セズ又他ニ輸出セサルモノハ第六欄ニ記入スヘシ
- 第四 本表ニ記入ノ物品ハ其都邑ノ商業ニ大關係アル者ニ限り別ニ指定セス

第二表

×ノ所ヘ都邑ノ名ヲ掲クヘシ

明治 月年

×商品聚散

調査シタル者ノ姓名

商 品	土地消費高		輸 出 高		月 末 在 高		輸 入 仕 出 元	輸 出 仕 向 先
	(一) 輸入品	(二) 土地産	(三) 再輸入品	(四) 土地産	(五) 輸入品	(六) 土地産		

第三項 都邑物價

- 第一 調査ヲ要スル場所ハ戶數凡一千以上ノ都邑トス
- 第二 本表ニ記スル二十九品ハ全管ヲ通シテ相庭ノ昂低ヲ比較スルモノナレハ取引ノ多寡ニ拘ハラズ必ズ登記スヘシ若シ全ク相庭ナキ場合アルキハ其欄内品名ノ下ニ朱線ヲ引クヘシ又品位ハ米ヲ上中下ニ分チ其他ハ都テ上品ノ卸相

庭ヲ掲クヘシ

第三 本表中最昂低ノ欄へハ一ケ月中ノ最モ昂キ相庭ト最モ低キ相庭トヲ掲ケ平均ノ處へハ一ケ月中ニ取引アリタル種々ノ相庭ヲ平均シテ舉グルモノトス

第四 同種ノ商品中建物ヲ定メ置キ常ニ其相庭ヲ取ルヘン其名稱例へハ米ナレハ肥後米又食糧ナレハ本齋ノ如シテ註記スルヲ要ス若シ其後前ニ定メタル建物ノ相庭ナキハ成へシ同品格ノモノ、相庭ヲ掲クヘシ

第五 二十九品外ト雖ヒ殊ニ取引多キモノアレハ幾品ヲ問ハス記入スルヲ要ス

第三表

×ノ所へハ都邑ノ名ヲ掲クヘシ

明治	× 都邑物價表	調査シタル者ノ姓名
月		
年		
商	品	最 昂 最 低 平均

一	米	上	一石
二	米	中	一石
三	米	下	一石
四	大麦		一石
五	小麦		一石
六	大豆		一石
七	小豆		一石
八	蚕豆		一石
九	小麦		一石
十	白砂糖	和産	一石
十一	白砂糖	洋産	一石
十二	黑砂糖	和産	一石
十三	黑砂糖	洋産	一石
十四	生油		一石
十五	水綿		一石
十六	紫烟草		一石
十七	綿糸	和産	一石
十八	金巾	何斤物生	一石
十九	緑綿	和産	一石
二十	裏地花色綿	洋産	一石

農商工

二十九	麻	一斤
二十九	藍	一斤
二十一	松六分板	一坪
二十一	水油	一石
二十三	石油	一石
二十四	石炭	百斤
二十五	木炭	十貫目
二十六	耕	全
二十七	美濃紙十帖	一束
二十八	半紙全	全
二十九	肥料	十貫目
二十九	種油	全

商況

商品ノ 商況ヲ報スヘキ要項ハ○氣候ノ順不順(産出物ニ因リ氣候ニ
 名ヲ掲 關係アルモノ)○産山高ノ概畧○當地商況ノ盛衰物價昂低ノ
 原因○仕向先及仕出元及市上ノ最况等ヲ詳述スヘシ

第四項 外國貿易品相庭並在高

第一 調査ヲ要スル場所ハ當分ノ内滋賀郡大津栗太郡草津甲賀
 郡水口同郡土山蒲生郡中野犬上郡産根坂田郡長濱伊香郡

六ヶ所原本ノ

木ノ本ノ六ヶ所トス

- 第二 本表ニ記スル二十五品ハ外國貿易品ノ重ナルモノナルカ
 故ニ必ス相庭ノ昂低並ニ成ルヘシ月末ノ在高ヲ記入スル
 ヲ要ス若シ全ク取引ナキモノハ其欄内品名ノ下へ朱線ヲ
 引クヘシ○最昂最低ノ欄ニハ其月ノ最モ昂キ相庭ト最モ
 低キ相庭トヲ舉ケ一ヶ月平均ノ所ニハ一ヶ月月中ニ取引ア
 リタル種々ノ相庭ヲ集メ之ヲ平均シテ舉グルモノトス
- 第三 二十五品外ト雖モ外國貿易品ニシテ其土地ニ因リ引取多
 キモノアレハ何品ニ限ラス之ヲ記入スヘシ
- 第四 二十五ノ商品ハ各其種類中豫メ建物ヲ定メ(普通商用ノ名
 稱ヲ註記シ)常ニ其品ノ相庭ヲ掲クヘシ但シ既ニ定メタル
 建物ノ相庭ナキ場合ニ於テハ成ルヘク同品格ノモノ、相
 庭ヲ登記スヘシ

第四表

×所へ其相庭ヲ上ケタル地名ヲ記スヘシ

明治 月年

×外國貿易品相庭

調査シタル者ノ姓名

最昂最低 一ヶ月月 平均在 高末		最昂最低 一ヶ月月 平均在 高末	
一	器械 坐標 鉄炮 島田 折返	二	生糸
三	絹物	四	綿糸和
五	全産洋		
六	生糸	七	赤砂糖
七	鐵和	八	丁銅
八	鐵和	九	鎮銅
九	鐵和	十	鎮銅
十	鐵和	十一	鎮銅
十一	鐵和	十二	鎮銅
十二	鐵和	十三	鎮銅
十三	鐵和	十四	鎮銅
十四	鐵和	十五	鎮銅
十五	鐵和	十六	鎮銅
十六	鐵和	十七	鎮銅
十七	鐵和	十八	鎮銅
十八	鐵和	十九	鎮銅
十九	鐵和	二十	鎮銅
二十	鐵和	二十一	鎮銅
二十一	鐵和	二十二	鎮銅
二十二	鐵和	二十三	鎮銅
二十三	鐵和	二十四	鎮銅
二十四	鐵和	二十五	鎮銅
二十五	鐵和		

模倣原本ノマ

十	九	八	七	六
一	生糸	生糸	生糸	生糸
二	生糸	生糸	生糸	生糸
三	生糸	生糸	生糸	生糸
四	生糸	生糸	生糸	生糸
五	生糸	生糸	生糸	生糸
六	生糸	生糸	生糸	生糸
七	生糸	生糸	生糸	生糸
八	生糸	生糸	生糸	生糸
九	生糸	生糸	生糸	生糸
十	生糸	生糸	生糸	生糸

商 況

名ヲ掲
シヘシ

商況ヲ報スヘキ要項ハ○氣候ノ順不順産出物ニ因リ氣候ニ
關係アルモノ○産出高ノ概算○當地商況ノ盛衰價格昂低ノ
原因○仕向先及仕出元及市上ノ景況等ヲ詳述スヘシ

第五項 常用品相庭

- 第一 調査ヲ要スル場所ハ凡ソ戸數一千以上ノ都邑トス
- 第二 本表ニ記スル三十八品ヲ以テ常用品トナシ全管ヲ通シテ比較スルモノナレハ盡ク登記スルヲ要ス若シ全ク賣買ナキモノアルキハ其品名ノ下へ朱線ヲ引クヘシ
- 第三 三十八品ノ外土地ニ依リ特ニ常用多キモノアレハ何品ニ限ラス之ヲ記入スルモ妨ケナシ
- 第四 表中米ハ上中下其他ハ總テ中等品ノ小賣相庭ヲ掲クヘシ尤モ小賣相庭ハ商店毎ニ差異多キモノナレハ成ルヘク平均ヲ得ル爲メニ毎月十五日若シクハ其前後ノ日ニ當リ同商家兩三軒以上ノ賣直ヲ調査シ其最高ト最低トヲ掲クルヲ要ス

第五表

×ノ所へ都邑ノ名ヲ掲クヘシ

明治 年		× 常用品相庭		調査シタル者ノ姓名	
品名	最昂	最低	平均		
米(白米) 上中下 一升					
糠(白) 一升					
大麥(莖) 一升					
小麥 一升					
大豆 一升					
小豆 一升					
粟 一升					
黍 一升					
糯(粘粉) 一升					
蕎麥 一升					
食鹽 一升					
桐油 一升					
味噌 一升					
酒 一升					
茶 一斤					

十七	白砂糖	(和産)	全
十八	黑砂糖	(和産)	全
十九	錠糖	(洋産)	全
二十	雜卵		百目
二十一	刻烟草		一個
二十二	水綿	(生)	一斤
二十三	打綿	(生)	一斤
二十四	金巾		百目
二十五	裏地花色金巾		一反
二十六	綿綢	(無地)	一尺
二十七	綿綢	(無地)	一尺
二十八	毛綿子		全
二十九	木綿裏地		一反
三十	麻苧		百目
三十一	水油		一升
三十二	石炭油		全
三十三	蠟燭十支掛		一斤
三十四	餅(原米)		十貫
三十五	炭(原炭)		全
三十六	半紙		一帖
三十七	膠紙		一帖
三十八	手拭		一節

第六項 諸會社(米商會所、國立銀行ヲ除ク)

- 第一 本項ハ農商工業ノ別ナシ二人以上資金ヲ合セ損益ヲ共ニスル會社、組合、會所、銀行等ヲ調査スルモノトス
- 第二 右會社、組合等ハ第六表ニ記入シ其會社、組合ノ借ノ部即負債、貸ノ部即資産ハ後半期ノ總勘定ニ因ルヘシ
- 第三 一己人ノ資金ヲ以テスト雖ヒ會社、組合、商會、會所等ノ集合名ヲ用ヒ若シハ銀行ノ名義ヲ用ヒ各其事務ヲ營ムモノハ始ラシ第七表ニ因リ記入スヘシ
- 第四 貯蓄預リ金會社、組合、商會及一己人ノ資金ヲ以テスルモノト雖ヒ會社、組合、商會等ノ集合名ヲ用ヒ若シハ私立銀行又ハ貯金預所ノ名ヲ以テ其業ヲ營ムモノハ更ニ第八表ニ因リ記入スヘシ
- 第五 水陸運輸業ヲ營ム會社、組合、商會、會所及ヒ一己人ノ資金ヲ

以テスルモノト雖也會社、組合、商會、會所等ノ如キ集合名ヲ
 用ヒ其業務ヲ營ムモノハ更ニ第九表、水運第十表陸運ニ因
 リ記入スヘシ

第六 此調査ハ毎年十二月ヲ以テ調製シ翌年一月限リ報道スル
 モノトス

第六表

全續表		全續表	
會社名稱	利益金	會社名稱	種營業ノ
準備積立金	利益金	資本金	所在地
組合主割賦金		備用金	年創
役員賞與其他	内	其他支拂	月業
翌年繰越		計	(何所)
前年割賦金	譯	所有ノ地所	支
		貸附金	店
		現在ノ其	資本金株
		在	數
		高錢	株主人員
		計	

全續表

會社名稱	馬	役夫	旅客賃金	荷物賃金	雜收入	興業費	營業費

全續表

會社名稱	諸	遭	難
皆破損傷	車族	客技	手職
死	傷	死	傷
死	傷	死	傷
死	傷	死	傷
死	傷	死	傷
死	傷	死	傷
死	傷	死	傷
死	傷	死	傷
死	傷	死	傷

第七項 諸市場

第一 一本表中賣上高及口錢收入高等ハ各其調査シ得ルモノハ記入シ若シ記入スヘキコナキ欄ニハ朱線ヲ引クヘシ

第十一表

諸市場	明治	年十二月	調査シタルモノノ姓名
市場名稱	種	所在地	開市日
	類		開市一ケ年
			合日數
			賣上高
			一年口錢其他收入高若クハ課税ノ日安トシタル金高

第二 口錢等ノ割合及慣例ヲ變スルコアルキハ之ヲ詳記シ又牛馬競市ノ如ク價ノ調査シ易キモノハ其賣買直段(及頭)平均(依)ヲ別查スルヲ要ス

第三 此調査ハ一ケ年分ヲ取纏メ翌年一月マテニ報道スルモノトス

第八項 商家傭人給料

第一 調査ヲ要スル場所ハ戸數凡一千戸以上ノ都邑トス

第二 給料ハ總テ一ケ年ノ額ヲ掲クヘシ但食料仕着ノモノモ
 ハ其衣食ノ料金ヲ概算シテ記入スヘシ
 第三 此調査ハ毎年十二月ヲ以テ調製シ翌年一月限り報道スル
 モノトス

第十二表

×ノ所ヘハ調査シタル場所ノ名ヲ掲クヘシ

種別	代理人支配人				代手				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
食料附ノモノ									
給料ノモノ									
仕着附ノモノ									
食料仕着附ノモノ									
利益高ニ應ニ賞與アルモノ									
食料仕着ノモノ									

× 商家傭人給料 明治 年十二月調 調査シタル者ノ姓名

第九項 商人録

第一 本表ニ記入スル商人ハ一ケ年取扱金高一萬圓以上ノモノ
 トス

第十三表

×ノ所ヘハ調査シタル場所ノ名ヲ掲クヘシ

明治 年	×商人録	明治 年十二月調	調査シタルモノ、姓名
業	体	屋號荷印ノ類	姓
			名
			見世所在ノ町番地

第十項 水陸運賃

第一 本表ノ調査ヲ要スル場所ハ第一項ノケ所ニ同シ

第十四表

×印ハ重量 △印ハ容積

水運賃錢表		明治 年十二月調	調査シタルモノ、姓名
種	目	自	(何港)
		至	里
		程自	三月至
		自	四月自
		至	七月自
		至	八月至
		至	十二月

職工男女ハスナハ十人以上ヲ使役スル工場ハ第一表ヨリ第十一表迄ニ
 做ヒ其年一ケ年分ヲ調査シ次年一月中旬ニ報道スヘシ

第二項 産額

産額ハ第十二表ニ做ヒ其年一ケ年ヲ調査シ次年一月中旬ニ報道ス
 ヘシ

第三項 職工賃銀

職工ノ賃銀ハ第十三表ニ做ヒ其年一ケ年中ノ平均賃銀ヲ調査シ
 次年一月中旬ニ報道スヘシ

第四項 職工人員

職工ノ人員ハ第十四表ニ做ヒ其年十二月三十一日ノ現在數ヲ調
 査シ次年一月中旬ニ報道スヘシ

第一表 蒸氣機關ヲ用フル工場

比較	前年		總計	國	村町郡	工場名稱	工業種類	資本金		準備金	機關		重ナル機械
	減	増						固定	運用		數	馬力	

固定資本トハ工場ノ地所家屋機械等ノ如キ費消品外ノモノニ使用
 シタル資金ヲ云又運用資本トハ原料給料賃銀其他營業上ノ諸雜費
 ニ充ツル資金ヲ云
 重ナル機械ノ名稱欄ニハ製造事業ニ付每部ノ重ナル機械ヲ掲クヘ

比較	前年	總計	國		蒸氣機關及水車等ヲ用ヒサル工場
			郡	村町	
減	増		名稱	工場	
			男	役員 一月一人當	
			女	給料	
			男	職工 一日一人當	
			女	賃銀 一人當	
			合計	滿十五年以上	
				一ヶ年	
				原料價	
				雜費	
			數量	製造品	
			價		

第九表

蒸氣機關及水車等ヲ用ヒサル工場

比較	前年	總計	國		蒸氣機關及水車等ヲ用ヒサル工場
			郡	村町	
減	増		名稱	工場	
			種類	工業	
			固定	資本金	
			運用	役員	
			男女合計	職	
			男	滿十五年以下	
			女	合計	
			日數	一年間	
			時數	一日間	
				就業時日	

第八表

蒸氣機關及水車等ヲ用ヒサル工場

第十表 製糸織物業

比較	前年	總計	國		製造家數	男工	女工	合計
			郡	村町				

家數ノ欄ニハ工場ヲ設ケテ營業スルト住家内ニ於テ從事スルトナ論
 セス終テ一個所ト做シテ記載スヘシ
 男工女工ノ欄ニハ十五年以下ノ者モ合記スヘシ
 以下之ニ做フ

第十一表 製糸織物業

比較	前年	總計	國		製造家數	男工	女工	合計
			郡	村町				

他業ヨリノ兼業者ハ製糸織物ノ二業ヲ兼ヌルト其中ノ一業ノミチ
 兼ヌルトナ問ハス皆此下段ノ欄ニ記入スヘシ

漆器職○蒔繪職○酒造職○酢釀造職○味噌釀造職○醬油釀造職○
 油絞職○印板板木師○彫刻職○袋物職○縫箔職○足袋職○染物職
 ○烟管張職○綿打職○糸組職○傘張職○提灯張職○筆職○櫛挽職
 ○莖刻職○鼈甲細工職○版摺職○靴製造職○船大工職○製本職○
 洋服仕立職○皮滑職○菓子製造職○車製造職○活版植字職○大工
 職○石工職○左官職○燻方○木挽職○家根職○瓦葺職○疊刺職○
 建具職○經師職○指物職○桶職○下駄職○和服仕立職○機織職

○第四款 記簿式開

○第五款 會社開

○第六款 市場開

○第七款 出版

第三百六拾九條 出版發賣ヲ禁止セラレタル書目

○明治十六年十一月二十日滋賀縣告第百九號告示書籍發賣
營業人へ

愛媛縣 士族 吉本義秋著

東京府平民内藤清八出版

新 奇 開 自由美譚

小本一册

右ハ今般其筋ニ於テ出版發賣禁止相成候條心得ノ爲メ此旨書籍發
賣營業人へ告示候事

○明治十七年三月十三日滋賀縣告第貳拾貳號告示書籍發賣
營業者へ

愛知縣士族祖父江道雄編輯

地租輕減控之註釋

小本一冊

右今般其筋ヨリ出版發賣禁止相成候條心得ノ爲メ書籍發賣營業者
へ告示候事

○明治十七年三月十九日滋賀縣告第貳拾六號告示書籍發賣營業者へ

南村元秀編輯

一明治十七年中要日記

一冊

明治十六年十二月十五日出版屆

福非宗七編輯

一般家日課一覽

一冊

明治十六年十二月二十五日出版屆

右ノ書籍今般出版發賣ヲ禁止セラレ候條爲心得此旨書籍發賣營業
人へ告示候事

○明治十七年五月八日滋賀縣告第四拾五號告示書籍發賣營業者へ

根村熊五郎編輯

一 人身造化論

西洋形小本一冊

明治十七年二月一日出版屆

右ノ書籍今般出版發賣ヲ被禁止候條爲心得此旨書籍發賣營業人へ
告示候事

○明治十七年七月二十九日滋賀縣告第七拾五號告示書籍發賣營業者へ

兒玉又七編輯

一 道化不具鏡

二 枚

明治十七年月日出版屆

右今般出版發賣差止メラレ候條爲心得書籍發賣營業人へ告示候事

○明治十七年九月二十四日滋賀縣告第八拾三號告示

池田友吉畫

一 新板奇予たぐく

一枚

明治十七年五月三十一日出版屆

東京府平民

出版人

池田友吉

芝區芝口二丁目十八番地

右今般出版發賣差止メラレ候條此旨告示候事

○明治十七年十二月九日滋賀縣告示第百壹號告示寄附發賣營業人へ

鈴木龜太郎編輯

明治十八年

一 民要日記

小本一册

明治十七年二十一日出版屆 出版人 鳥取縣士族

鈴木龜太郎

出雲國志守郡松江分
千八百五十三番地

右ノ書籍今般出版發賣差止ラレ候條此旨書籍發賣營業人へ告示候事

明治十七年二十一日原本ノ
マ、
忘字部原本ノ
マ、忘字部ノ
誤ナラン

第三百七拾條 新聞紙ニ關スル諸願屆書雛形

○明治十七年五月二十二日滋賀縣丙第四拾四號達郡後所へ

新聞紙ニ關スル諸願屆書雛形別冊ノ通相定メラレ候條右ニ準シ可
爲差出此旨爲心得相達候事

別冊

新聞紙願屆書雛形用紙ハ總テ美濃紙願書ハ三通屆書ハ二通ノ事

發行願書雛形

何新聞紙發行願

一 題號

何新聞

一 記載ノ種目

政事法律農工商業等ノ類

一 刷行ノ定期

毎日每週毎月又ハ無定期ノ類

一 發行所

滋賀縣近江國郡町村番地何社社號ナキモハ
ハ戶主ノ氏名

一 印刷所

全

滋賀縣近江國郡町村番地住若クハ寄留

一持主若クハ社主

氏名

何年何月生本月何年何ヶ月

一編輯人

氏名

全 全

一印刷人

氏名

全

一此他社長幹事等ノ名義ヲ紙上へ署名スル者ハ總テ前ノ例ニ準シ
茲ニ列記ス

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ且保証金何圓爲替手形若クハ銀行ノ預手形又ハ公債証券ヲ以テ管轄廳へ納置候間發行ノ義御間届被下度此段奉願候也

(保証金ヲ納ムルニ及ハサルモノ、例ハ左ノ如シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ發行致度候間御間届被下度此段奉願候也

(廢業ノ後更ニ再發行願出ルモノ、例ハ左ノ如シ)

右ハ何誰願人自身持主若クハ社主ニテ何年何月何日發行第何號限リ廢

絶ノ處今度更ニ新聞紙條例ヲ遵守シ繼續發行致度依テ保証金云々

(前例ニ同シ)保証金ヲ納ムルニ及ハサルモノ

年月日 持主若クハ社主 氏名 印

但社主數名ナレハ總連印ノ事以下之ニ做フ

内務卿某殿

○

題號變更願書雛形

何新聞改題願

何新聞改題

一何新聞

右改題之義御聞届被下度此段奉願候也

滋賀縣近江國郡町村番地住若クハ寄留
府縣華士族平民

年月日

持主若クハ社主 氏 名 印

内務卿某殿

○

種目變更願書雛形

何新聞記載ノ種目變更願

一現今種目

政事法律農工商業等其他何々

一變更種目

何々

右變更之義御聞届被下度此段奉願候也

(保証金ヲ納メテ準許ヲ得タルモノ更ニ保証金ヲ要スル種目ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

右變更致度依テ保証金何圓爲替手形若クハ銀行ノ預手ヲ以テ管轄
形又ハ公債証券應へ納置候間御聞届被下度此段奉願候也

(保証金ヲ納メテ準許ヲ得タルモノ更ニ保証金ヲ要セサル種目ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

右變更致度尤御聞届ノ上ハ是マテ納置候保証金御下渡ノ義ハ管轄應へ可願出候間御聞届被下度此段奉願候也

滋賀縣近江國郡町村番地住若クハ寄留
府縣華士族平民

年月日 持主若クハ社主 氏 名 印

内務卿某殿

○

持主社主變更願書雛形社長幹事等變更
願モ本例ニ依ル

何新聞讓渡願

何新聞ノ義是迄何誰持主若クハ社主ニ候處今般何誰ニ於テ新聞紙條例

ヲ遵守シ發行致度候間同人へ讓渡ノ義御聞届被下度此段奉願候也
(休業中出願ノ例ハ左ノ如シ)
何新聞ノ義何誰持主社若クハ主ヲ何年何月何日マテ發行候處今般何
誰ニ於テ新聞紙條例ヲ尊奉シ發行致度候間全人へ讓渡ノ義御聞届
被下度此段奉願候也

年月日

滋賀縣近江國郡町村番地住若クハ寄留
府縣華士族平民氏 讓渡人 氏 名印

全

讓受人 氏 名印

何年何月生本月何年何ヶ月

内務卿某殿

定期變更届書雛形

何新聞刷行定期變更届

一何年何月何日發行第何號マテハ隔日若クハ每月一又ハ何々

一何年何月何日發行第何號ヨリ改メ毎日若クハ毎週又ハ何々

右之通變更致候間此段御届申上候也

年月日

滋賀縣近江國郡町村番地住若クハ寄留
府縣華士族平民氏 持主若クハ社主 氏 名印

滋賀縣令 某殿

發行所變更届書雛形印刷所變更届書
モ亦本例ニ依ル

何新聞發行所變更届

滋賀縣近江國郡町村番地

一何年何月何日マテ

滋賀縣近江國郡町村番地

何 社社ハ戸主ノキモノ

(廢業ノ後再ヒ准許ヲ得テ再發行スルモノ、例ハ左ノ如シ)

一第何號 何年何月何日發行

上六何誰個人自身持主若クハ社主若クハ何年何月何日發行第何號限リ廢絶ノ處今般再發行願御聞届ノ御指令何年何月何日御下渡ニ付前書ノ通發行致候間此段御届申上候也

年月日

持主若クハ社主 氏 名印

滋賀縣令 某殿

○

休業並廢業届書雛形

何新聞休業若クハ届廢業

一何年何月何日第何號マテ發行

一何年何月何日ヨリ休業若クハ廢業

右御届申上候也

年月日

持主若クハ社主 氏 名印

滋賀縣令 某殿

○

新聞紙雜誌月報雛形

何年何月中何新聞又ハ雜誌何々雜誌發賣配布高御届

一何新聞又ハ雜誌發賣金高 何 程

定 價 一枚 金何錢

但定價ヲ變更シタル當日ニ限リ(舊定價一枚金何錢)ト本行ノ左

方ニ書スヘシ

一發賣員數 何 册枚

但無代價刷行ノモノナレハ發賣員數ヲ(配付員數)ト書スヘシ

此内譯

外國へ發賣又ハ配付之部

外國在留本邦人へ

何 冊枚

本邦在留外國人へ

全

外國へ

全

内國へ發賣又ハ之部

何府下何國へ

何 冊枚

全

全 做以下

但各廳へノ納本ハ該廳所在ノ國ニ算入ス且一時一枚賣ノ如キ
モ何國ノ人ヲ問ハス賣捌キノ國ニ算入スヘシ發行所ノ外ニ於
テ賣捌キタル國ヲモ區分シテ發行所ノ分ト一筆ニ列記スヘシ
右之通相違無之候也

滋賀縣近江國郡町村番地

年月日

何新聞紙又ハ雜報誌持主又ハ社主氏

名印

滋賀縣令某殿

印紙類賣捌規
程ハ滋賀縣ノ
布令ニ非ス故
ニ登載セス

○第八款 印紙賣捌

第三百七拾壹條 印紙類賣捌人心得

○明治十七年六月十一日滋賀縣甲第六拾三號布達

本年^四太政官第九號布達印紙類賣捌規程ニ據リ印紙類賣捌人心得
左ノ通相定候條此旨布達候事

○

第一項 印紙賣捌人改姓名轉居ノ節ハ其旨郡役所ニ申出看板ニ記
載シアル住所姓名ノ書換ヲ請フヘシ

但燒失等ノ節ハ其事由ヲ詳記シ更ニ看板ノ下ケ渡ヲ請フヘシ
第二項 印紙賣捌人休業スルハ規程第十條ニ準據シ賣捌看板ヲ
返納スヘシ

第三項 規程第八條但書ニ據リ印紙類代金延期ノ許可ヲ得タルハ
別紙上納受書雛形ニ倣ヒ證書ヲ差出スヘシ

第四項 印紙賣捌手数料ハ即納延納ハ印紙代金上納ノ節之ヲ下渡スヘシ

第五項 印紙賣捌人ハ帳簿ヲ製シ各種類ヲ區別シ印紙賣捌高ヲ記載シ置クヘシ

但煙草印紙ハ別ニ成規アルヲ以テ此限ニアラス
(上納受書雛形)

印紙賣捌代金上納御受書

一 印紙代金何圓

内譯

印紙ノ種類及枚數ヲ掲記スヘシ

右印紙代金ノ義ハ來ル何月何日無相違上納可仕因之右代價ニ對シ別紙廉書ノ公債証書ヲ抵當トシテ差出申候若シ上納期日ニ不納候ハ該公債証書御賣捌ノ上ハ印紙代金御差引御徴收相成聊異議無

十七年八月六日
日錄第甲第八十六號布達
ヲ以テ受書雛形ハ但書ヲ追加ス其布達ハ

後ニ出

之且印紙類ハ保護可致ハ勿論萬一水火盜難等有之候トモ印紙代金ハ屹度上納可致此段御受申上候也

何郡何村番地

賣捌人

年月日

某

印

右戸長

某

印

他人記者ノ公債証書ヲ借受抵當トスルハ其記者者ノ連署ヲ要スヘシ戸長同斷

縣令宛

公債証書廉書

一 何種類公債証書

何枚

此金高何圓

農商工

内譯

何印何號何番何枚此金高何圓
右之通相違無之候也

何郡何町番地

賣捌人

年月日

某

印

右戸長

某

印

他人記者ノ公債証書ヲ借受抵當トス
ルハ其記者者ノ連署ヲ要スヘシ戸
長同職

○明治十七年八月六日滋賀縣甲第八拾六號布達

本年^六本縣甲第六十三號布達印紙類賣捌人心得書中代金上納受書
雛形へ左ノ通但書追加候條此旨布達候事

本年本縣甲第
六十三號布達
八前ニ出

但印紙類賣捌規程第十條ノ場合ニ於テハ本文ノ期限ニ拘ハラズ
直ニ上納可仕候也

第三百七拾貳條 印紙類賣捌規程取扱手續

○明治十七年六月十一日滋賀縣丙第五拾四號達^{郡役}

本年^四太政官第九號布達印紙類賣捌規程取扱手續左ノ通相定候條
此旨相達候事

第九號布達ハ
滋賀縣ノ布令
ニ非ス故ニ登
載セズ但民事
成文律類第
四編ニ出

第一項 印紙類ハ郡長ノ名印ヲ以テ請求スヘシ

第二項 印紙類賣捌看板ニハ住所姓名番號等従前ノ書式ニ倣ヒ記
載ノ上之ヲ下付スヘシ二種類以上賣捌シモノハ各種類ヲ一枚ニ
併記スルモ妨ケナシ

第三項 印紙賣捌人員増減ハ一ケ年ヲ二期ニ分テ別紙雛形ニ倣ヒ

十三年大藏省
乙第一號達ハ
未タ滋賀縣管
下ニ頒布ナキ
ニ付登載セシ
但民事成文律
類纂第三編第
三十五條中ニ
出

増減表ヲ調製シ七月十日限り差出スヘシ

第四項 規程第八條ノ但書ニ據リ郡長ニ於テ延納ヲ許可スルコトヲ
得其抵當トナスヘキ公債證書ノ價格ハ明治十三年大藏省乙第一
號達ニ據テ之ヲ定ムヘシ

但延期印紙ノ代金及上納期限ヲ記シ其時々當廳ヘ報告スヘシ

第五項 規程第十條ニ據リ返納セシ印紙中代金既納ノモノアル片
ハ當廳ヘ稟申シ左ノ區別ニ從ヒ其代金ヲ返納スヘシ

但返納セシ印紙代金ニ對スル手数料ハ其節之ヲ返納セシムヘ
シ

一代金納付ト印紙返納ト其時日同年度ニ係ルモノハ該年度收入
金ノ内ヨリ還付シ而シテ稅表皆濟帳トモ其員數ヲ除却スヘシ

一代金納付ト印紙返納ト其時日年度ヲ異ニスル片ハ別途還付シ
稅表皆濟帳トモ除却ニ及ハス其返納印紙ハ受拂計算表ニ一並

ナ設ケ元請ニ立ツヘシ

第六項 規程第十二條ノ損傷又ハ汚染印紙交換ノ際上納セシ代金
百分ノ五ノ金額及前項但書ニ據リ返納セル手数料ノ内最前下渡
セシ時ト年度ヲ異ニスルモノハ雜收入ニ編入納付スヘシ

第七項 規程ニ違背シタル者アル片ハ其情狀ヲ詳悉シ營業禁止又
ハ停止處分ヲ稟中スヘシ

（別紙）
川紙美濃紙

明治何年 自何月何月 印紙賣捌人員増減表

明治何年 自何月何月 印紙賣捌人員増減表

郡名	受恩典者		非恩典者	計	前期ニ對スル増員	前期ニ對スル減員
	即納ノ者	延納ノ者				
何郡	何人	何人	何人	何人		

十七年十月二
十日滋賀縣内
第九十七號達
ナ以テ第七項
ヲ第八項トナ
シ更ニ第七項
ナ加フ其違ハ
後ニ出

右之通候也

年月日

郡長 名印

縣令 宛

○明治十七年十月二十日滋賀縣丙第九拾七號達所郡役

本年六當縣丙第五十四號達印紙類賣捌規程取扱手續第六項ノ次ニ
左ノ一項ヲ加ヘ第七項ヲ繰リ下ケ第八項トス此旨相達候事

本年當縣丙第
五十四號達ハ
前ニ出

○

第七項 損傷又ハ汚染印紙ノ交換ヲ許可シタル時ハ郡役所現在ノ
印紙ヲ以テ交換シ損傷汚染ニヨリ返納ノ印紙ハ每半年分取纏メ
七月十日限り收稅課ヘ送付スベシ

第三百七拾三條 印紙類賣捌高表書式并ニ届出期限ノ事

○明治十七年十月二十日滋賀縣甲第百拾六號布達

自今印紙類賣捌人ハ別紙表式ニ倣ヒ每三ヶ月ヲ一期トシ其期ノ翌

月五日限り郡役所ヘ可届出此旨布達候事

但本年七月ヨリ九月中マテノ分來十一月十日限郡役所ヘ可届出

事

(別紙)

諸印紙賣捌高表調製方備考

一 毎年七月ヨリ九月マテノ分ヲ一期トシ十月ヨリ十二月マテノ分

ヲ一期トスヘシ其餘之レニ倣フ乃チ該年十月翌年一月四月七月

ヲ届出ノ期トス

一 表中元受高トハ前期ノ殘高ト其期中買受高トヲ合シタルモノヲ

云